

終戰連絡事務局官制改正ノ件審査委員會

昭和二十年九月二十五日(火曜日)樞密院

事務所ニ於テ開會

出席者

平沼 議長

清水 副議長

審査委員長

南 顧問官

審査委員

樞密院

榎 顧問官

深井 顧問官

竹越 顧問官

三土 顧問官

野村 顧問官

芳澤 顧問官

國務大臣

吉田 外務大臣

説明員

樫橋 法制局長官

松本 外務次官

石黒 書記官長

諸橋 書記官

高辻 書記官

(午前十時五分開會)

南審査委員長開會ヲ宣シ吉田外務大臣ヨリ本  
案ノ大綱ニ付説明アリ

潮委員ヨリ

(一) 現行官制實施以來一月間ニ於ケル終戰連  
絡事務局運營ノ狀況ヲ問ヒ松本外務次官及  
岡崎終戰連絡事務局長官ヨリ終戰連絡事務  
局ハ河邊中將カマニラニ於テ米軍側ト最初  
ノ會談ヲ爲シタル際占領軍自體ノ便宜供與

ノ爲中央機構ヲ設ケヨトノ要求ニ應ジ外務  
省ニ設置セラレタルモノナルガ其ノ所管事  
務廣般多岐ニ亘リ且外ハマツクアーサー麾  
下ノ諸幕僚ヲ構成員トスル四部ト交渉シ内  
ハ内閣其ノ他各省ノ大臣次官局長ト連絡ス  
ル事項極メテ多ク從テ長官一人部長四人ノ  
構成ヲ以テシテハ政治問題ノ處理ヲ取捌ク  
上ニ手不足ナルヲ免レズ處務ノ能率ヲ掲ゲ  
得ザル旨吉田外務大臣ヨリ現狀ヲ一言スレ  
バ米側ニ押サレ氣味ナルガ將來ノ機構ハ相

手方ニ對スル應答ヲ正確迅速ニスルト共ニ  
進デ之ニ應酬スル程ノ餘裕ト能力トヲ有セ  
ザルベカラザル旨

(二) 本案成立ノ過程ニ於テ本案機構ノ所管問  
題及其ノ機構ノ本質ニ付論議アリタルガ其  
ノ實相果シテ如何ヲ問ヒ吉田外務大臣ヨリ  
從前ノ經過ニ付テハ説明シ難キモ現在ノ必  
要ハ此ノ都度ヲ以テ充シ得ベク夕バ將來ハ  
司令部ヲ進デ當方ヨリ指導シタシト考慮シ  
特ニ總裁二人ヲ得ルコトヲ希望シ官制ハ本

案ニ落着キタルモノナル旨

(三) 第三條ニ次長二人ヲ置キ第九條ニ其ノ職  
掌ヲ定メタルガ(イ)次長ニ職務上ノ分掌アリ  
ヤヲ問ヒ吉田外務大臣及樞橋法制局長官ヨ  
リ本官制ノ主タル目的ハ事務ヲ迅速ナラシ  
ムルニ在リ之ガ爲寧ロ本務ノ分擔ハ之ヲ固  
定セズ流動的ナラシメントスルモノニシテ  
第八條ノ總裁ノ職能ニ由リ次長ノ職務ヲ定  
メシムベク將來ノ復興局其ノ他ノ官制規定  
ニモ兩次長ノ職務分配ヲ掲ゲタル例ナキ旨

相  
密  
院

(三) 執シ、次長が總裁、代理ヲ為スヤヲ問ヒ  
樞橋法制局長官ヨリ外務大臣が其ノ管理權  
ニ基キ之ヲ定ムベキ旨

(四) 第四條ニ付地方事務局ノ數ヲ問ヒ松本外  
務次官ヨリ先方ノ要求及當方ノ便宜ニ應ジ  
其ノ數ヲ決定スベク現在ハ第八軍ノ司令部  
所在地タル横濱、第六軍ノ司令部所在地タル京  
都ニ在ルモ將來ハ更ニ軍團司令部、聯隊司令  
部ノ所在地ニモ之ヲ置カンコトヲ考慮シツ  
ツアル旨

(五) 第七條ノ參與ニ關シ會議體トシテ利用ス  
ルヤ個別的ニ知識ヲ吸收スルヤ其ノ取扱方  
ヲ問ヒ松本外務次官ヨリ大體民間ノ第一線  
的人物ニシテ外國語ニ堪能ニシテ外國ノ事  
情ニ通ジタル者ヲ採リ各部ニ配屬シ部長が  
相手方ト會見ノ際、如キ共ニ會見ニ意見ヲ  
吐露セシムル等民間側ノ意ヲ尊重セント  
スル旨 夫々答辯アリ

深井委員ヨリ

(一) 總裁ト外務大臣トノ關係ニ付旧官制第五

編  
密  
院

相  
密  
院

係ハ外務大臣ノ指揮監督トアリタルニ第八  
條ニハ其ノコトナキ理由ヲ訊シ吉田外務大  
臣及樞橋法制局長官ヨリ第八條ニ外務大臣  
ノ指揮監督ヲ受ケテ省キタルハ總裁が親任  
官ナル場合ニ於ケル從來ノ例ニ依リタルモ  
ノニシテ理論上ハ差支ナキ旨答辯アリ  
三土委員ヨリ總裁ノ人選ニ對米國ニ對スル關  
係及國內諸情勢ニ對スル關係ニ於テ最モ適當  
ナル人物ヲ採ルベク最善ノ注意ヲ拂ハシコト  
ヲ望ミ吉田外務大臣ヨリ特ニ注意ヲ拂フベキ

旨答辯アリ

野村委員ヨリ終戦連絡事務局ノ所掌事務ハ内  
政産業文化其ノ他諸般ノ面ニ關係ヲ有シ從テ  
局務ノ處理ニ支障ナカラシメシガ爲ニハ専門  
知識ニ俟ツ所多カルベク其ノ構成ニ如何ナル  
配慮ヲ加フルヤヲ問ヒ吉田外務大臣及松本外  
務次官ヨリ本案ハ外務省員ノ外他ノ各廳及民  
間ヨリ廣ク人材ヲ任用スルノ趣旨ニ基キ立案  
セラレタルモノナル旨答辯アリ  
芳澤委員ヨリ今後政府モ國民モ降伏ノ事實ヲ

編  
密  
院

深く認識セザレバマツクアーサー元帥トノ交  
渉ニ於テ機宜ヲ誤リ延テ重大ナル結果ヲモツ  
ラスベク從テ今後之トノ交渉ニ當リテハマ元  
帥ノ立場ヲ諒解シ之ト充分意志ノ疎通ヲ欠カ  
ザル様一段ト努力ヲミポツダム宣言ノ條項ヲ完  
全ニ履行シ米國ヲシテ充分ニ納得セシメ以テ  
一日モ速カニ平和條約ヲ締結スベキ旨希望ノ  
表明アリ

深井委員ヨリ總理ノ議會ニ於ケル演說ニ於テ  
敗戰ノ原因ニ關シ物質力ノ不足ニノミ言及シ  
他ニ及バザリシ事ハ遺憾ナリトノ所見開陳ア  
リ  
右終テ質問終了ト認メ大臣及説明員ノ退席ヲ  
求ム

(大臣及説明員退席)

其レヨリ委員間ニ於テ協議ノ結果本案ハ此ノ  
儘之ヲ可決シ然ルベキ旨全會一致ヲ以テ議決  
ス

仍テ委員長閉會ヲ宣ス

(正午閉會)

